キリスト教委員会のHP(http://rakuno-ce.org)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

【奨励】「全てを賭して――イエスを覚え続ける」

本日の聖書は「命のパン」の教説（ヨハネ6：22–59）の結びです。ここで用いられている「人の子」とはイエスの表象であり、「人の子の肉を食べ」と「その血を飲む」とはイエスの肉体を象徴するパンを食べ、イエスの血を象徴するワインを飲む聖餐式を指します。聖餐式は「主の晩餐」から生み出された聖礼典（サクラメント）であり、本来は「最後の晩餐」のように、礼拝後などの共同の食事の一環として、パンを食べ、ワインを飲み、イエスの十字架の死を贖罪として覚えるためのものでしたが、徐々に礼拝のなかで行う儀礼に変化していきました。キリスト教が地中海世界に伝播するうえで聖餐が障壁になったことが知られています。というのも、ユダヤ世界では、血は生命の象徴であり、いくら実際にはワインを飲むとはいえ、血を飲むという表象は忌避されるものだったからです。また、ギリシャ・ローマ世界では、新興宗教であるキリスト教の聖餐が誤解されて伝わり、実際にはパンを食べる儀式であるとはいえ、それをイエスの肉を食べると表象していることから、キリスト教はカンニバリズム（食人）の宗教だという噂が立ったのです。しかし、キリスト教が浸透していくと、このような誤解も解け、聖餐とはイエスが十字架で身を賭してくださったように、イエスを信じる者もまた全てを賭してイエスのために生きることを決意しつつ、洗礼を受けたときのように、新鮮な気持ちでイエスを覚え続けるために行われていることが理解されるようになったのです。ヨハネの「命のパン」の教説は聖餐の意味をまさに伝えようとしているのです。黒澤酉蔵は1909年に洗礼を受け、その生涯は「全てを賭して――イエスを覚え続ける」ものでした。本学もまた「全てを賭して――イエスを覚え続ける」証として、本学の使命に全身全霊を傾けていきたいと切に願います。

【聖歌隊で一緒に歌いましょう】

大学礼拝では、学生・教職員有志による聖歌隊が合唱をしています。礼拝の前と後にオルガン前で練習をしています。歌ってみたい方は練習にお越しください。参加できるときに一緒に歌ってくださることも可能です。

【次回の大学礼拝】2026年11月17日（火）10時40分

聖　書：マタイによる福音書6章52–59節

奨　励：「最も価値あるもの」朴　美愛（学園宗教主事）

讃美歌：21–425番（こすずめも、くじらも）、21–403番（聞けよ、愛と真理の）

【前回の大学礼拝（秋期キリスト教教育強調週間）】2026年11月3日（火）

学生：80名　教職員：12名　合計：92名

【大学礼拝週報】2026年度 第22号（後学期第7号）

2026年11月10日（火）午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

司　　式　小林昭博（宗教主任・循環農学類教授）
奏　　楽　佐藤理恵（日本基督教団野幌教会オルガニスト）
讃美指導　相原晴伴（農環境情報学類長・教授）

前　奏	イエスはわがよろこび（ワルター作曲）
讃美歌	21–403番（聞けよ、愛と真理の）
聖　書	ヨハネによる福音書6章52–59節
さんび	酪農学園大学聖歌隊
奨　励	「全てを賭して――イエスを覚え続ける」
祈　り	小林昭博（宗教主任）
讃美歌	21–522番（キリストにはかえられません）
報　告	
後　奏	神のみむねは常に行なわれ（グラープナー作曲）

【本日の聖書】ヨハネによる福音書6章52–59節（新共同訳）

52それで、ユダヤ人たちは、「どうしてこの人は自分の肉を我々に食べさせることができるのか」と、互いに激しく議論し始めた。53イエスは言われた。「はっきり言っておく。人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたたちの内に命はない。54わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる。55わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物だからである。56わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。57生きておられる父がわたしをお遣わしになり、またわたしが父によって生きるように、わたしを食べる者もわたしによって生きる。58これは天から降って来たパンである。先祖が食べたのに死んでしまったようなものとは違う。このパンを食べる者は永遠に生きる。」59これらは、イエスがカファルナウムの会堂で教えていたときに話されたことである。